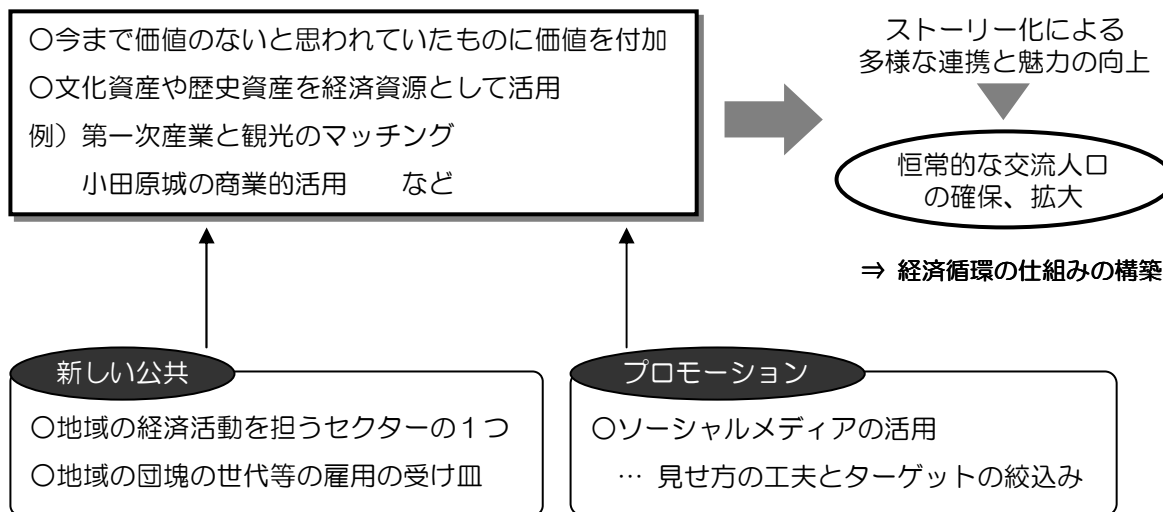


第 1 回会議の意見交換を踏まえた 地域経済の振興に向けた考え方のポイント・論点

1 第 1 回会議の意見交換の主な論旨

■付加価値化・経済資源化



※新しい公共：行政と協働しながら様々な公共的機能を担う市民の力・地域の力

■エネルギー産業等の立地・集積

- 【論点②】
- ・エネルギー産業を取り巻くトレンド
 - ・ターゲットとする“エネルギー産業”
 - ・エネルギー産業が立地、集積する素地（関連産業や事業者、土地利用など）
 - ・その他の産業の立地、集積の可能性
 - ・集積している既存産業の活用、拡大

■上記以外

- 事業者の収益と市民の所得水準の向上が経済活性化の目的
- 少子高齢化など、大きな時代の潮流を踏まえた方策
- やる気のある団体や事業者に対するサポートへの特化 など

2 主な意見や論旨の基本方針・役割分担・アプローチ等への反映

(1) 基本方針

- ◆多様な産業の連携による相乗的な経済振興に繋がる好循環を作り上げること
- ◆そのために、地域にヒト・モノ・カネを呼び込み、「需要の拡大」と「企業活動の集積・活性化」を図ること
- ◆それにあたっては、小田原らしさ（自然・歴史・立地という恵まれた環境と育まれた地域資源）を活かし、他地域との差別化を図ること

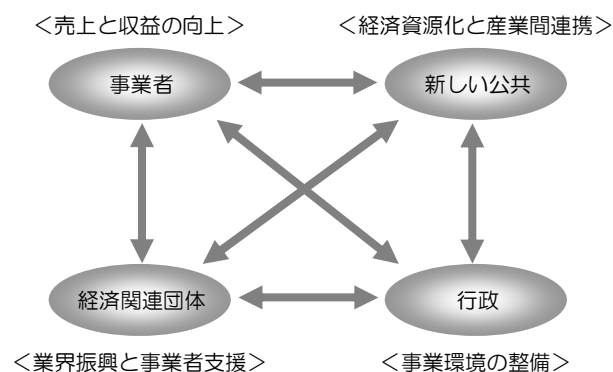


<目指すべき方向性>

- 「需要の拡大」は、「外発型の内需」のうち「交流人口の拡大」を中心に位置付け
- 「企業活動の集積・活性化」は、「新規産業及び既存産業の集積・拡大」を切り口の1つに追加の検討

(2) 役割分担

- 従来型の「事業者」「経済関連団体」「行政」の三者に加え、地域の経済活動を担うセクターの1つとして「新しい公共」を位置付け
- 公共的機能を果たす「新しい公共」の主な役割
 - ・地域資源の経済資源化の先導
 - ・産業間連携の誘導、仲介
 - ・団塊の世代等の受け皿 など



(3) アプローチと重点施策

ア. 需要の拡大ー内需（外発型）の拡大ー交流人口の拡大

■アプローチ

- 今まで価値のないと思われていたものに価値を与えたり、文化資産や歴史資産を経済資源として活用したりするなど、付加価値化・経済資源化を図る。
- それらのストーリー化を行い、多様な連携と魅力の向上を図る。
- マスメディアではなく、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアを活用し、見せ方を工夫してターゲットを絞ったプロモーションを行う。

■重点施策

- 【論点①】 ・交流人口の拡大につなげる付加価値化・経済資源化とストーリー化の具体的方策
- ・段階と「誰が」「何のために」「何を」という形での見える化

産業観光の推進 ～第一次産業とものづくりの地場産業の豊かさを活かす～

STEP① 産業観光メニューの一元化

【誰が】市、観光協会、該当する業界団体等

【何を】産業観光のメニュー（農業・漁業・林業・地場産業など）の情報の一元化と内容のパッケージ化

【何のため】メニューの多様性を活かしたパッケージによる高付加価値化

STEP② 販売チャネルの確保

【誰が】市、観光協会、旅行事業者、宿泊施設（箱根地域）

【何を】旅行商品や宿泊施設での体験プログラム等への組み込みによる販売チャネルの確保

【何のため】産業観光のメニューの販売と利用の拡大

イ. 企業活動の集積・活性化－新規産業及び既存産業の集積・拡大

■アプローチ

○東日本大震災を経て、エネルギー政策が一定の転換点を迎えていることなど、時代の潮流や産業のトレンドを踏まえた、新たな産業の立地、集積を図る。

○集積している既存産業の活用による集積の拡大、活性化を図る。

■重点施策

【論点②】 ・エネルギー産業をはじめとする新たな産業の立地、集積や、既存産業の活用、拡大に向けた具体的方策

・段階と「誰が」「何のために」「何を」という形での見える化